



子どもの心の健康講座 ⑫

発達障害(2)

発達障害は、その特徴がとても多岐にわたっていて、しかも個々のケースでかなり異なっています。そのひとつに「自閉スペクトラム症」があり、その人を取り巻く人的、物的な環境、年齢によって表出する特徴が大きく変わります。遺伝が深く関わっているといわれ、エピジェネティクスといって、特定の働きをする遺伝子は、妊娠中や出生後の喫煙、化学物質、精神ストレスなど、どんな環境で育つかによってそのスイッチがオンになるかオフになるか決まる、と近年注目されています。

発達障害は、従来「自閉症」「アスペルガー症候群」「高機能自閉症」と区別されてきましたが、近年アメリカの精神疾患の診断基準に準拠し、「自閉スペクトラム症」とまとめて呼ばれるようになりました。

年齢を問わず、人口の1〜2%に自閉スペクトラム症の人がおり、しかも診断されずに社会生活で大変さを抱えている人も数多くいるといわれています。本稿では他の障害や疾患同様、誤解なくお伝えすることが難しいことをご了承ください。

大きな特徴は、生まれつき脳の機能に困難さがあるため①対人関係を築くことが難しい②他者とのコミュニケーションのあり方(考

えや経験を分かち合うこと)

が独特③何かにとってもこだわったり執着する④視覚、聴覚、嗅覚、触覚、温痛覚など体の感覚が非常に敏感だったり鈍かったりし、同じ動作を繰り返すなどがみられます。

興味あることに固執、場の空気を読むのは苦手

幼少期から他者をうまく認識することが難しいため、人見知りやなかつたり、人と一緒に体験したことを分かち合うことが難しく、集団遊びが出来ずに孤立することがあります。

言葉が遅れていたり、遅れていない場合でも相手の意図や状況にそぐわないまま自分の興味だけを一方的

に話すなど、会話のキャッチボールが難しい場合があります。

人の表情、声色、場の状況を読むことが苦手なため、同年代の仲間の集団に溶け込めない、あるいは暗黙のルールを理解して相手の意図を読んで合わせることに難しいため、時にいじめの対象になることもあります。

こだわりが強く、身支度や出掛ける時の道のり、物の置き方、日課などで自分のやり方に固執することもあります。

記号、数字、マーク、流れる水や砂の動き、単純な動きをするおもちゃなど、興味のあることには非常に集中し、没頭すると時間や状況を忘れてしまうこともあります。

全体を見わたすことが不得手で、細部に注目してこだわる傾向があります。誰かが話す言葉を耳で聞いて理解するより字や絵、表などを目で見て理解する方が得意な人が多いです。

記憶の仕方が独特で、自分にとってインパクトのある場面を非常に鮮明に長期記憶する半面、言われたことをすぐに忘れてしまうなど、忘れっぽさを持ち合わせることもあります。

とはいっても喜怒哀楽などの感情は、健常といわれる人と同じように感じます。一見素っ気なく見えても、他人とのやりとりで褒められればうれしいし、叱られれば悲しいし、おとしめられれば悔しいのです。

しかも記憶が良いため、後々まで覚えていて、突如そのことを思い出して話に出すことがあります。いじめに遭ったり、厳しすぎるしつけや教育を受けた人は、数十年間にわたって苦しむことも珍しくありません。

愛情を持って育て、充実した遊びや学びで可能性

なぜそのような行動をとるのかについて分析し、本人の得意とする能力に焦

点を当てて補助し苦手な面を補う、もしくは無理強いせずに苦手さを軽減する工夫をする、時には避ける工夫をすることが必要です。

「幼少期に養育者から愛情を持っていいねいに養育を受ける」「バランスよく十分な栄養を取る」「生活のリズムを整える」「充実した遊びや学びで周囲の人と良い関係を築く」ことによって体調を整え、スキルを身につけ、自尊心を高めることが出来る可能性が上がります。エピジェネティクスの観点から、社会性、安定した情緒、認知力を左右する遺伝子を働かせている可能性もあります。

本人の特性やその時点の限界の中で、出来ることは精一杯褒め、しなければいけないことは力量に合わせて身につけるよう励まし、自信をつけてやりましょう。何かを伝える時、「言わなくても分かるでしょう」ではなく、言葉や絵、図を使って具体的に伝えましょう。

児童精神科医

北畑 歩